



準天頂衛星システムの現況

準天頂衛星システム「みちびき」によるサービス開始を11月1日に予定しています。今般、閣議決定された各種政策文書①「経済財政運営と改革の基本方針2018」（骨太の方針）、②「未来投資戦略2018」（成長戦略）、③「統合イノベーション戦略」において、準天頂衛星の利活用について記載されたところであり、今後も「みちびき」の7機体制の確立と機能・性能の向上に向けた着実な開発・整備を行うこととしています。

サービス開始に向け様々な分野での利活用も進んでおり、NEXCO東日本は、高精度測位端末を装備したロータリー除雪車を開発、試行導入しました。スムーズな除雪による道路の安全確保、オペレーターの負担軽減と人員不足への対処などを目的として実証実験を開始しており、将来の除雪作業の完全自動化を目指しています。

※ http://www.e-nexco.co.jp/pressroom/data_room/regular_mtg/pdfs/h29/1025/011.pdf

また、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）は、視覚障害者の自立歩行を補助するための高精度測位情報を活用した歩行補助システムについて、実用化支援することとしています。骨伝導スピーカーによる音声案内、小型カメラによる信号機の色識別システムにより歩行を誘導し、登録ルートから外れた場合は警告音を鳴らし、定められたルートに誘導します。

※ http://www.e-nexco.co.jp/pressroom/data_room/regular_mtg/pdfs/h29/1025/011.pdf



平成29年度補正・平成30年度政府予算（G空間関連）

省庁名	平成29年度補正予算額		【単位: 百万円】	
	うち 地理情報システム	うち 衛星測位		
内閣府（警察庁含む）	8,680	210		8,470
文部科学省	168	168		
農林水産省	-	-		
国土交通省	3,011	2,903		108
防衛省	-	-		
合計	11,859			

政府のG空間関連の平成29年度補正予算額は、約119億円が計上されました。主な事項としては、「地理情報システム」に関しては、地籍調査の推進（国土交通省）、「衛星測位」に関しては、実用準天頂衛星システムの開発・整備・運用の推進（内閣府）が挙げられます。

また、平成30年度当初予算額は約476億円が計上されており、平成29年度予算額と比較すると、1.02倍に増加しました。主な事項としては、「地理情報システム」に関しては、地域防災等のためのG空間情報の利用活用推進（総務省）、「衛星測位」に関しては、準天頂衛星を活用した無人航空機物流実証事業（経済産業省）が挙げられます。

※金額は関連予算含む。十百万円の位（小数点第一位）を四捨五入。施策単位で額を確認できるものについてのみ集計。内数は「-」で記載。

省庁名	平成29年度当初予算額	平成30年度当初予算額		【単位: 百万円】	
		うち 地理情報システム	うち 衛星測位		
内閣府（警察庁含む）	15,907	16,393	949		15,444
総務省	320	407	203		204
法務省	4,548	4,748	4,654		94
財務省	18	16	16		
文部科学省	3,010	3,801	3,801		
農林水産省	837	736	391		345
経済産業省	1,570	2,226	2,076		150
国土交通省	19,480	18,903	17,890		1,013
環境省	472	314	314		
防衛省	340	87	87		
合計	46,502	47,631	30,381		17,250

「リアルタイム津波浸水被害予測システムの開発」に文科相表彰

G空間情報活用推進特別委員会で取り上げ、地理空間情報活用推進基本計画(第3期)のシンボルプロジェクトに選定された「津波浸水被害推計システムの運用」に係る技術開発が、平成30年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞しました。

実用化の動きでは、内閣府地震防災情報システム(DIS)の津波浸水被害推計システムとして4月から実運用が始まりました。この世界最先端システムの拡張・運用を、国の施策とともに発展させることを目的とした産学協同の「株式会社RTi-cast」も3月に設立されています。

現在は南海トラフ地震への備えとして、鹿児島県から静岡県までの6,000kmの海岸線が対象ですが、次の展開として、①東京オリンピック・パラリンピックに向けた関東、東北、北海道などへの対象の拡大、②自治体、消防・警察などへ配信、③S-netやDONETなどのリアルタイム観測データとの連携を実現するための開発・運用を推進していく必要があります。

※ 株式会社RTi-cast : <https://www.rti-cast.co.jp/>



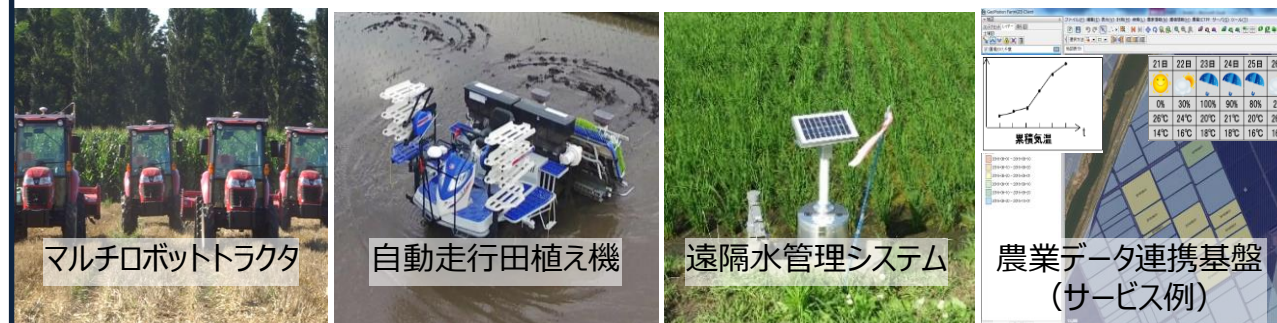
社会実装事業進捗状況 ～スマート農業の提案～

内閣府SIP「次世代農林水産業創造技術」は、基幹的農業従事者が減少する一方、大規模経営体が急増する中、ICTやロボット技術等を活用して、超省力・高生産のスマート農業モデルの実現を目指すプロジェクトです。

自動走行するロボットトラクタについては、平成30年度に市販化予定であるほか、完全無人化に向けた遠隔監視システムを開発中であるほか、自動運転田植機の実用化にも取り組んでいます。

水田の水管理を大幅に省力化するスマートフォン等による遠隔水管理システムについては、本年3月より先行販売を開始しました。

また、農業ICTを推進するため、データの連携・共有・提供機能を有するデータプラットフォーム「農業データ連携基盤」の構築を進めており（昨年12月にプロトタイプを構築）、平成31年4月に本格稼働の予定です。



マルチロボットトラクタ

自動走行田植え機

遠隔水管理システム

農業データ連携基盤（サービス例）

東日本大震災以降、福島県では、農地や農業用施設の復旧と圃場整備が進められています。大区画化など機能向上が図られた水田において、SIP農業で開発した大規模経営体向けのスマート農業技術を活用すれば、超省力・大規模生産の新たな農業モデルの構築が期待できます。

G空間情報×宇宙技術利活用ビジネスコンテスト開催（総務省）

総務省は、3月15日（木）、品川プリンスホテルにおいて、「G空間情報×宇宙技術利活用ビジネスコンテスト」を開催しました。

<参考：事前セミナーについて>

本事業がG空間情報等の技術利活用に資する人材育成を目標としているところ、本コンテストに先立って、G空間情報技術や宇宙技術、スタートアップ等に関する知識習得のための事前セミナーを北海道（11月30日～12月1日）及び広島（12月7～8日）で開催し、それぞれ約50名の参加者があり、その中からビジネスコンテストの参加者を募りました。

<ビジネスコンテスト当日の様相>

- **参加チームからのビジネスアイデア発表**
北海道大学、岡山大学、津山高専等の学生で構成された8つの学生チームからビジネスアイデアの発表がありました。
- **表彰・講評**
審査員による審査の結果、下記3チームが賞を授与され、小林総務大臣政務官から表彰を受けました。
【金賞】津山高専 人工流れ星を活用した宇宙葬サービス
【銀賞】室蘭工大等 路面凍結情報等提供サービス
【銅賞】岡山大学 シニア向け脳トレすごろくアプリ
- **開会・閉会挨拶等**
開会時は新藤元総務大臣から、閉会時は小林総務大臣政務官から御挨拶をいただきました。

※平成30年度もG空間情報技術活用のためのセミナーやコンテスト等を実施し、関連分野での人材の裾野拡大につなげる予定です。



受賞チーム 記念撮影



新藤元大臣
開会挨拶

小林政務官
閉会挨拶